

インデ島問題

【1】大海原に浮かぶインデ島。豊かな自然に囲まれた小さな島です。

【2】ここには、カモノウシという珍しい動物がいます。人々は卵や肉は食用に。乳も飲めるし、毛皮にも利用できます。

【3】これはインデドラゴン。(がお〜)。実は、甘党で果物が大好物。

【4】インデ島には、インデ人という先住民が暮らしています。インデ語を話し、果物を取ったり、農耕をしたり、カモノウシの遊牧や魚を取りながら、島中を移動して暮らしていました。移動しながら暮らせば、食べるものや牧草を取り尽くす事もないからです。

【5】ここは「始まりの丘」。インデ人は、豊かな暮らしをもたらすインデ島自体を信仰の対象としていて、この「始まりの丘」とインデドラゴンをインデ島のシンボルとして、とても大切にしていました。

【6】大海原に浮かぶ小島だったので、インデ島は長らくその存在が知られていませんでしたが、19世紀、コロナ国の探検隊がやって来て程なく、コロナ国の領土に組み入れられました。

【7】コロナ国の領土になってから、インデ島社会は激変します。コロナ国は、インデ島の温暖な気候や平坦な地形に目を付けて、大規模な植民と開発をします。

【8】コロナ国はまず、インデ島の土地整理をします。インデ人にはもともと不動産を所有するという概念がありませんでしたが、コロナ国はインデ人の居留地域を定め、地域内の土地をインデ人に財産として分配しました。居留地以外は、温暖な気候を利用したサトウキビのプランテーションになりました。

【9】不動産という概念がよくわからなかった事もあり、多くのインデ人は、以前と同じように島中を移動しようとしていました。しかし、コロナ国はインデ人の移動を厳しく取り締まりました。この時は、多くのインデ人が怒りをあらわに抵抗しますが、コロナ国は近代的な軍を投入し鎮圧しました。この事件でインデ人の人口の2割が命を落としました。

【10】コロナ国の植民地になってからは、インデ人は自給自足できなくなり、コロナ国の持ち込んだ貨幣を使った分業社会に変わりました。インデ人の1割は、与えられた土地で農業をして成功しましたが、ほとんどのインデ人は、うまくは行かず、プランテーションで労働者として働しかありませんでした。漁業もインデ人居留地の海岸以外ではできなくなりました。

【12】コロナ政府は「インデ人をコロナ国民にする」ことに一生懸命。インデ人向けに学校を建設し、コロナ語を国語として教え、インデ語の使用を禁止しました。インデ人は急速にコロナ化されていき、インデ語を話せる人も、2割ぐらいになってしまいました。

【13】インデ人のインデ島信仰も禁止されます。しかし、インデドラゴンは居留地内にも出没したし、始まりの丘も居留地内にあったため、インデ人たちは、毎年、丘に集ってインデ島に感謝する習慣はこっそり続けていました。

【9】プランテーション初期の反乱で、インデ人の人口は8割になりましたが、インデ人の人口が劇的に減ることになるのは、

【14】コロナ人が持ち込んだ様々な病原体です。コロナ人と違いインデ人はあまり病原体に耐性を持っていなかったため、インデ人は次々と伝染病で死亡してゆきます。半分以上のインデ人が伝染病で死にました。インデ人の人口は最盛期の3割になってしまいました。

【15】数が減ったのは、人だけではありません。インデ人の生活を支えてきたカモノウシも、インデ島のシンボルだったインデドラゴンも急激に数を減らしました。コロナ人は、カモノウシやインデドラゴンを、プランテーションを荒らす害獣とみなし、見つけ次第殺したのです。現在、カモノウシもインデドラゴンも絶滅危惧種になっています。

【16】自分たちの生活を支えてきたカモノウシや、信仰のシンボルでもあるインデドラゴンが駆除されたことは、インデ人社会に大きな喪失感をもたらしました。しかしインデ人の悲しい気持ちとらはらに、インデ島はプランテーションの島として、安定期を迎えます。

【17】インデ島の植民地化を、コロナ国、全てが良しとしていた訳ではありません。コロナ国の左派政党やメディアが、インデ島に対する政策への批判を始めると、コロナ社会にはインデ人への同情が高まります。こうした世論の後押しを受けて、1970年にはインデ保護法が施行されます。

【18】保護法に勇気付けられた、インデ人の何割かは、かつて暮らしていた島全体の返還運動や返還訴訟を始めますが、これらは全く認められませんでした。

【19】その後、燃料価格の高騰や、サトウキビ価格の下落、度重なる天候不順などの影響で、プランテーション経営が破綻します。インデ島は、一気に不況の島として有名になり、プランテーションで働いていたインデ人たちのほとんどは失業しました。

【20】不況を打破する切り札として出てきた構想が、温暖な気候を生かした、総合リゾート計画です。島をビーチリゾートとして開発し、道路や空港を整備し、コロナ島や外国から観光客を呼び込む戦略です。多くの雇用を生み出すこの計画は、失業しているインデ人からは歓迎されました。また、ある程度の資本を持つインデ人からもビジネスチャンスとして歓迎されました。こうして、インデ島はリゾートの島として生まれ変わりました。

【21】インデ人資本によるカジノもできました。かつてプランテーションで働いていたインデ人たちは、リゾート施設やカジノの従業員として働いたり、インデ文化ショーのエンターテイナーとして働いたりしており、全般的にプランテーション時代よりも多くの収入を得るようになってゆきます。

【22】しかし、良いことばかりではありません。リゾートになると同時に、インデ島では、アルコール依存症や薬物中毒、ギャンブル依存症などが社会問題となってゆきます。

【23】また、プランテーション時代よりもはるかに多くのコロナ人が、インデ島に移住してくるようになりました。リゾート計画前は、インデ人が人口の上では多数でしたが、いまや、インデ島の人口にインデ人が占める割合は1割台にまで減少しています。

インデ人の中でも、インデ文化や植民地化される前の生活様式に深い愛着を持つ層や、プランテーション時代に人生の大半を過ごした年代は、こうした状況への不満を表明するようになります。

【24】彼等曰く「病原体、アルコール、薬物、ギャンブル、悪いものは全部コロナからくる」「我々の大半は、インデ人の誇りを忘れてる」「インデ文化を見世物にするのはインデ人の恥だ」など、少数ではありますが、コロナへの怒りをあらわにする人も出てきました。このように不満を表明する人々は、メディアでは「インデナショナリスト」と呼ばれています。このような人々をナンセンスと感じる人もいます。特に裕福な人々は、怒りをあらわにする人々を「偏狭なナショナリスト」「時代に取り残された化石」と半ば哀れみ、半ば蔑んでいます。

【25】このような時、インデ島を揺るがす大きな出来事がありました。インデ人の居留地にある始まりの丘に、石油が埋蔵されていることがわかったのです。コロナ政府は、油田の開発を計画。「始まりの丘」周辺のインデ人居留地の土地を買い上げるプロセスを進めています。

【27】インデ人社会では、かつての抵抗以来の大きな反コロナ運動もありますが、考え方は様々です。みんなが共有する感情としては、伝説の丘やその周辺が油田となることへの反感、警察力などを背景とした強制土地収用や、追放に対する恐怖と危機感があります。

現在のインデ人世論は大体3つに分かれています。

まずは「リアリスト派」。油田開発もしょうがない。反対しても最終的にはなすすべはないのだから、油田開発で出る利益をインデ人社会にどれだけ還元させるか。土地を引き渡すのと引き換えに、さらなる優遇措置をコロナ政府から引き出したほうが良いと考える人たち。

【28】次に「油田開発反対派」。インデ人居留地での開発は反対だし、ましてや聖なる「始まりの丘」を開発することは許せない。これ以上環境が壊されることは我慢できない、と考える人たち。

【29】そして「分離独立派」。インデ人は、歴史的にコロナ国に弾圧を受けてきた。沢山の人が殺され、生活を奪われ文化も奪われてきた。この上インデ人の信仰のよりどころである「始まりの丘」まで取られようとしている。こんなだったら、コロナ国から独立したほうがいい、と考える人たちです。

【30】 コロナ国の世論も割れています。先住民の権利や環境問題に敏感な人々などは油田開発に反対をしています。また、一部ではありますが、インデ島の独立を支持している人々もいます。しかし、コロナ国の国益を重視する人々は、リゾートで莫大な国家予算を投資してもらった上に、カジノ特権を得ているインデ人が文句をいうのは身勝手。石油は国を豊かするので、インデ人も国籍はコロナ人なのだからコロナ全体の利益を考えるべきだと考えています。